2026年3月期 第2四半期決算概要資料

三菱HCキャピタル株式会社 2025年11月14日

- ✓ 社長の久井でございます。
- ✓ 本日は、ご多用のところ、当社の決算説明会にご出席を賜りまして、誠に有難うございます。
- ✓ 本説明会は、会場にお集りの皆さまに加え、ウェブライブ配信を通じて多くの皆さまにご出席いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。
- ✓ さて、本日でございますが、まずは私から先ほど開示をいたしました 「2026年3月期第2四半期決算概要資料」のハイライトをお話しさせていただきます。
- ✓ 続きまして、「2026年3月期第2四半期の決算実績」および「2026年3月期業績予想」につきましては、取締役常務執行役員の佐藤から、また、「中長期的な企業価値向上に向けた取り組み」につきましては、私からご説明させていただきます。
- ✓ その後、皆さまからのご質問にお答えいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- ✓ それでは、お手元の「2026年3月期第2四半期決算概要資料」の2ページ、ハイライトをご覧く ださい。

ディスクレーマー

★ 三菱HCキャピタル

- 本資料には、当社または当社グループの業績、財政状態、その他経営全般に関する予想、見通し、計画、目標等の将来に関する記述が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点で入手可能な情報から得られた当社の仮定や判断に基づくものであり、その性質上、一定のリスクや不確実性等が内在しており、将来に実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。このような事態の原因となりえる不確実性やリスクの要因は多数あります。
- ◆ 本資料に記載された計数は、「四半期」または「四半期別」の表記がない限り、当四半期連結累計期間の値です。また、それぞれ切り捨てて表示しており、端数が合計と 合致しないものがあります。当社は、本資料に記載された情報を最新のものに随時更新する義務も方針も有しておらず、今後、予告なく変更されることがあります。
- 本資料は、日本国内外を問わず、投資誘導を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は利用者ご自身の判断と責任において行われますようお願いします。

■ インカムゲイン

● 本資料をご利用の結果生じたいかなる損害も、当社は一切責任を負いません。

本資料における表記・計数の定義

■ MHC :三菱HCキャピタル

■ elfc

■ MHCUK : Mitsubishi HC Capital UK (欧州のリースおよび金融会社)

■ MHCA : Mitsubishi HC Capital America

(米州のリースおよび金融会社) ■ EE : Furopean Fnergy(再生可能・次世代

■ EE :European Energy(再生可能・次世代エネルギー会社)

:Engine Lease Finance(航空機工ンジンリース会社)

■ JSA :Jackson Square Aviation(航空機リース会社)

- CAI :CAI International(海上コンテナリース会社)

■ PNW :PNW Railcars(鉄道貨車リース会社)

■ 御幸ビル:御幸ビルディング(2024年9月に連結除外)

■ アセット関連損益 :カスタマーソリューション・環境エネルギー・航空・ロジスティクス・ 不動産セグメントにおける保有資産に係る売上総利益ベースの

売却損益および減損等(時価評価損益を含む)の合算値:「アセット関連損益控除後の売上総利益」+

「営業外損益(償却債権取立益を除く)」

■ 純利益 :親会社株主に帰属する四半期または当期純利益

■ ROA : <u>純利益</u> (前期末総資産額+当期末総資産額)÷2

■ ROE : <u>純利益</u> (前期末自己資本+当期末自己資本)÷2

■ セグメント資産残高 :「営業資産残高」+「持分法投資残高」+「のれん」+「投資有価証券等」

ハイライト よ E菱HCキャピタル

糸	ŧį	ξIJ	Ź	K

2026/3期2Q 実績 前年同期比 (増減率)

887億円

+270億円 (+43.9%)

業績予想

進捗率

1,600億円

55.5%

コメント

- ▼ 不動産セグメントにおいて複数の大口アセット売却益を計上したこと、 環境エネルギーセグメントで前年同期に計上した大口貸倒関連費用や 減損損失が剥落したことに加え、航空、ロジスティクスセグメントの 連結子会社による決算期変更に起因した増益効果等により、 前年同期比で270億円の増益。
- ☑ 織り込み済みの連結子会社の決算期変更による増益効果があり業績 予想に対して55.5%の進捗率となったが、概ね見通しどおりのため 業績予想は変更なし。
- ▼ 中間配当金は前年同期比2円増配し期初予想通りの22円。

2

- ✓ まず、2026年3月期 第2四半期の決算実績につきましては、純利益が前年同期比270億円 増益の887億円となりました。
- ✓ 期初予想に対する進捗率は、織り込み済みの連結子会社の決算期変更による増益効果があり 55.5%となりましたが、概ね見通しどおりの着地となったことから、業績予想に変更はござい ません。
- ✓ 中間配当金も期初予想の通り、前期比2円増配の1株当たり22円といたしました。
- ✓ では、ここで佐藤に代わらせていただきます。

(次のスクリプトは3ページをご参照)

目次	🙏 三菱HCキャピタル
01 2026年3月期 第2四半期決算概要	
02 セグメント関連情報	
03 2026年3月期 業績予想	
04 中長期的な企業価値向上に向けた取り組み	
05 参考情報	

- ✓ 常務執行役員の佐藤でございます。
- ✓ それでは、私より、資料の「01. 2026年3月期 第2四半期決算概要」、「02. セグメント関連情報」、「03. 2026年3月期 業績予想」につきまして、ポイントをご説明させていただきます。
- ✓ まずは、資料の5ページをご覧ください。2026年3月期 第2四半期の決算実績につきまして ご説明いたします。

01 | 2026年3月期 第2四半期決算概要 02 | セグメント関連情報 03 | 2026年3月期 業績予想

- 04 | 中長期的な企業価値向上に向けた取り組み
- 05 | 参考情報

● 目次に戻る

	(a)	(b)	(c)=(b)-(a)	(c)=(b)-(a) $(d)=(c)/(a)$		c)=(b)-(a) (d)=(c)/(a)		
	25/3期	26/3期	前年同期比					
(億円)	23/3#n 2Q	20/3#n 2Q	増減	増減率	増減 (除、為替影響*			
1 インカムゲイン	1,987	2,257	1 +269	+13.6%	+310			
2 アセット関連損益	477	274	2 -202	-42.4%	-200			
3 純利益	617	887	3 +270	+43.9%	+287			
4 契約実行高	16,515	15,641	4 -874	-5.3%	-722			
5 中間配当金	20円	22円	+2円	-	-			
前期末比								
(億円)	25/3期末	26/3期 2Q末	増減	増減率	増減 (除、為替影響*1)			
6 セグメント資産残高	109,356	110,695	5 +1,339	+1.2%	+1,928			

主な増減要因

1 インカムゲイン

✓ 航空、ロジスティクスセグメントの好調、連結子会社の決算期変更による増益効果等により増益。

2 アセット関連損益

✓ 不動産セグメントにおいて前年同期に計上した御幸ビルの 大口売却益(370億円)の剥落により減少。 なお、この剥落影響を除くと、不動産セグメントにおける複数 の大口売却益の計上等により増益。

3 純利益

✓ インカムゲインの増加に加え、環境エネルギーセグメントで 前年同期に計上した大口貸倒関連費用の剥落等により増益。

4 契約実行高

→ 海外カスタマーセグメント*2が欧州事業の伸長により増加した ものの、航空セグメントにおける前年同期の大口実行の反動減 等により前年同期比減少。

5 ヤグメント資産残高

✓ 航空、海外カスタマーセグメントを中心に資産を積み上げた ことにより前期末比増加。

5

- ✓ まず①のインカムゲインにつきましては、連結子会社の決算期変更による増益効果はありましたが、それを除いても第1四半期に続いて、航空セグメントとロジスティクスセグメントが好調を維持し、インカムゲインの増加を牽引しました。
- ✓ また、ここに記載はありませんが、カスタマーソリューションセグメントも高収益資産の積み上げ が進み、しっかりとインカムゲインを伸ばしております。
- ✓ これらの要因により、前年同期比269億円の増益となりました。
- ✓ なお、連結子会社の決算期変更による増益効果につきましては、8ページで詳しくご説明しておりますので、後ほどご覧ください。
- ✓ ②のアセット関連損益につきましては、前年同期にあった御幸ビルディングの大口売却益(370 億円)の剥落により、前年同期比で減益となっておりますが、その一過性要因を除いた実質ベースでは、不動産セグメントでの複数の大口売却などにより、前年同期比で増益となっております。
- ✓ ③の純利益につきましては、インカムゲインの増加に加え、前年同期にあった環境エネルギー セグメントの大口貸倒関連費用の剥落などにより、前年同期比270億円の増益となりました。
- ✓ では次に、セグメント関連につきましてご説明いたします。ページが飛びまして、11ページにお進みください。

純利益の増減要因



インカムゲイン・アセット関連損益の推移

- ✓ インカムゲインとキャピタルゲインを経常的に享受する両輪経営を実践
- ✓ 収益基盤となるインカムゲインの着実な増加に加え、資産入替えによるキャピタルゲインも実現



^{*1} 分子(決算取込期間の調整による影響を除くインカムゲイン)÷分母(卵中平均総資産) *2 アセット関連損益に一定の調整を行った値。特別損益に計止されたアセット関連損益と同質の売却益を加算、 一方でアセット関連関益に計止したものの実質的には子会社売却の一環と見なすべき売却益を控除する調整を実施

^{*3} 決算取込期間の調整による影響を除くインカムゲインのCAGR *4 2022/3期2Qのインカムゲインは、航空セグメントでの一過性収益を計上したことなどにより 前後の四半期よりも利益が増加

連結子会社の決算取込期間の調整による影響

★ 三菱HCキャピタル

- ✓ 2026年3月期より、航空、ロジスティクスセグメントの子会社elfc、CAIおよびPNWの決算期を12月から3月に変更。
- ✓ この変更により2026年3月期1Qの決算対象期間が2025年1月~6月までの6カ月間となった結果、期ズレ調整期間(同年1月~3月)のセグメント利益として228億円(航空セグメント:89億円、ロジスティクスセグメント:62億円、調整額:75億円)の増益効果が発生。

PL影響

1 25/3期1Q

前期は航空セグメントの子会社JSAの決算期を12月から3月に変更。前年同期では、JSAの2024年4月~6月実績(3カ月間)に加え、期ズレ解消期間の2024年1月~3月実績(3カ月間)も取り込んだことで、航空セグメントおよび調整額(本部勘定)で下表のPL影響が発生。

26/3期1Q

当期では、航空、ロジスティクスセグメントおよび調整額(本部勘定)で下表のPL影響が発生。

	① 25/3期1Q				2 26/3	期1Q		(②-①)前年同期比(増減)			
(億円)	航空	調整額	合計	航空	ロジ スティクス	調整額	合計	航空	ロジ スティクス	調整額	合計
インカムゲイン	+63	+42	+105	+109	+106	+97	+313	+46	+106	+54	+207
アセット関連損益	+56	-	+56	+30	+6	-	+36	-26	+6	-	-20
貸倒関連費用	0	-	0	-	0	-	0	0	0	-	0
経費	+28	-	+28	+25	+30	-	+55	-3	+30	-	+27
特別損益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他(税金費用等)	+30	+8	+38	+24	+19	+21	+65	-5	+19	+12	+26
セグメント利益	+60	+33	+94	+89	+62	+75	+228	+29	+62	+42	+133

8

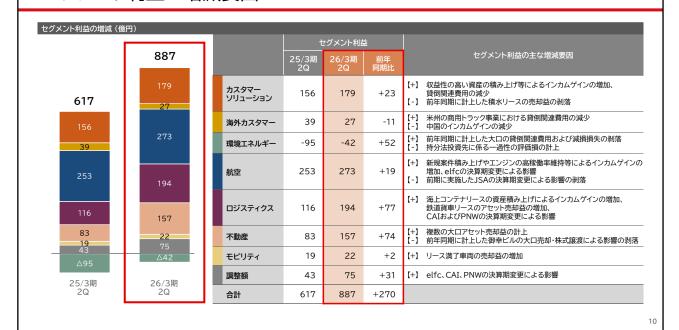
01 2026年3月期 第2四半期決算概要

02 | セグメント関連情報

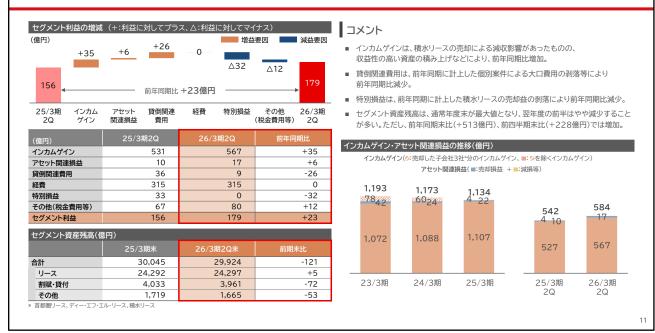
- 03 | 2026年3月期 業績予想
- 04 | 中長期的な企業価値向上に向けた取り組み
- 05 | 参考情報

← 目次に戻る

セグメント利益の増減要因



カスタマーソリューション



- ✓ まずは、カスタマーソリューションセグメントでございます。
- ✓ 先ほど少しお話ししましたが、収益性の高い資産の着実な積み上げなどによりインカムゲインを伸ばしたことに加え、貸倒関連費用も、前年同期に計上した大口費用の剥落などにより大きく減少したことなどにより、セグメント利益は前年同期比23億円の増益となりました。
- ✓ 前年同期にあった積水リースの売却による増益効果の剥落という大きな減益要因があったなかで、それを打ち返し、23億円の増益となっていることは、2025中計で掲げたビジネスモデルの進化・積層化の成果が着実に出始めていると考えております。
- ✓ 12ページにお進みください。

海外カスタマー*1① 🙏 三菱HCキャピタル **セグメント利益の増減** (+:利益に対してプラス、△:利益に対してマイナス) コメント (億円) 増益要因 減益要因 インカムゲインは、中国のセグメント資産残高の減少によるリース料収入の減少 等により前年同期比減少。 ∆12 ■ 貸倒関連費用は、米州の商用トラック事業における費用が着実に減少しているこ Δ1 Λ4 39 とにより前年同期比減少。 Δ20 前年同期比 △11億円 ■ 経費は、欧州での費用増加により前年同期比増加。 25/3期 インカム ゲイン 貸倒関連 経費 特別損益 その他 為替影響 26/3期 2Q (税金費用等) 25/3期2Q インカムゲインの推移(億円) インカムゲイン 689 659 -30 668 -20 -25 貸倒関連費用 168 138 -30 142 1.399 経費 464 470 +5 477 +12 1.363 特別損益 1,216 115 65 689 22 659 その他(税金費用等) 18 +4 22 +4 114 70 ASEAN ⁵⁹30 25 2 39 -11 -13 466 5713 464 中国 414 228 209 セグメント資産残高(億円) 米州 759 718 619 371 欧州 379 30,749 +1.002 +466 合計 欧州(MHCUK) 17,324 18,809 +1,485 18,240 +916 米州(MHCA) 10,192 9,920 -272 9,962 -230 23/3期 24/3期 25/3期 25/3期 26/3期 -160 中国 656 487 -169496

✓ 海外カスタマーセグメントでございますが、前年度に非常に高い水準となった米州事業の貸倒関 連費用は、今年度に入り、大きく抑えることができております。

2.516

-40

- ✓ 一方で、中国事業においては、資産減少によるインカムゲインの減少などの減益要因があったことで、セグメント利益は前年同期比11億円の減益となりました。
- ✓ 米州事業に関しては、米州の商用トラックの市場環境としては、引き続き厳しい状況が続いており、決して楽観視はしておりませんが、こうした事業環境におきましても貸倒関連費用が減少しているのは、前年度から継続してきました審査基準の見直しや引き揚げ車両の販売強化、事業ポートフォリオ自体の見直しといった対策の成果だと考えております。
- ✓ 米州の商用トラック事業の業況や貸倒関連費用の状況は14ページで詳しくご説明しておりますので、後ほどご覧ください。
- ✓ なお、昨今報道されている、米国の大手自動車部品メーカーの経営破綻に端を発して、ファクタリング事業やプライベートクレジット事業のリスクがクローズアップされていることについて、投資家の皆さまの関心が高いのではないかと存じます。
- ✓ 当社の米州事業について申し上げますと、これらの事業割合は小さい状況で、収益に与える影響も極めて限定的でございますので、現時点で大きなリスク要因とは認識しておりません。
- ✓ 引き続き金融市場への影響なども含め米国のマクロ環境は注視してまいります。
- ✓ ページが飛びまして、15ページにお進みください。

2,576

ASEAN

海外カスタマーセグメントの実績 セグメント利益ベースの為替影 2.535

海外カスタマー②

★ 三菱HCキャピタル

主要計数(億円)											
	25/3期	26/3期	***	除、為替影響			25/3期	26/3期	***	除、為替影響	
	2Q	2Q	前年同期比	26/3期2Q	前年同期比		2Q	2Q	前年同期比	26/3期2Q	前年同期比
欧州(MHCUK)						中国					
インカムゲイン	371	379	+7	378	+6	インカムゲイン	30	13	-16	13	-16
貸倒関連費用	34	45	+10	45	+10	貸倒関連費用	11	4	-6	4	-6
経費	245	257	+12	256	+11	経費	21	18	-2	19	-2
特別損益	-	-	-	-	-	特別損益	-	-	-	-	-
その他(税金費用等)	26	20	-5	20	-5	その他(税金費用等)	1	0	-1	0	-1
セグメント利益	65	55	-9	55	-9	セグメント利益	-3	-8	-5	-9	-5
為替影響*				0		為替影響*				0	
米州(MHCA)						ASEAN					
インカムゲイン	228	209	-19	219	-9	インカムゲイン	59	57	-2	57	-1
貸倒関連費用	118	68	-50	72	-46	貸倒関連費用	3	19	+16	20	+17
経費	152	145	-7	151	-1	経費	44	48	+3	49	+4
特別損益	-	-	-	-	-	特別損益	1	-	-1	-	-1
その他(税金費用等)	-10	0	+10	0	+10	その他(税金費用等)	1	2	+1	2	0
セグメント利益	-32	-4	+28	-4	+28	セグメント利益	10	-14	-24	-15	-26
為替影響*				0		為替影響*				1	

3

海外カスタマー③

★ 三菱HCキャピタル

米州運送セクターの市況について

外部環境

需給バランスの改善は引き続き緩やかなため、2026/3期に市況の 大きな改善は見込めず、数年かけて徐々に回復していく見通し。

課題・ 打ち手

- 審査基準の厳格化・モデルの見直し、期中管理の強化、中古車両等の 販売強化など、新たな貸倒関連費用の発生を抑制し、延滞債権からの 回収を極大化するための諸施策を引き続き推進。
- 事業ポートフォリオに占める商用トラック事業の構成割合を下げること で業績変動を抑え、リスク・リターンの改善を推進中。同事業割合は 2024年3月末の47%から2025年9月末には36%に減少。

現状・ 見通し

- 2026/3期も需給バランスの大幅な改善は見込めないが、 2023年以前に実行した延滞化率の高い債権の減少が進んでいること から、通期の貸倒関連費用は前期比で減少する見通し。
- 実際に、第2四半期累計の貸倒関連費用は前年同期比で大幅に減少し ており、現時点では期初見通しを上回るペースで費用が減少。
- *1 運送業者の収入源である運賃 *2 (出所)ACT Research社「Freight Forecast: Rate and Volume Outlook (October 13, 2025)」をもとにMHC作成

米州における四半期別の貸倒関連費用の推移(億円)



米国における大型トラックのスポットレート*1*2の推移



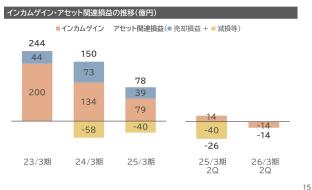
環境エネルギー(1)

🙏 三菱HCキャピタル



コメント

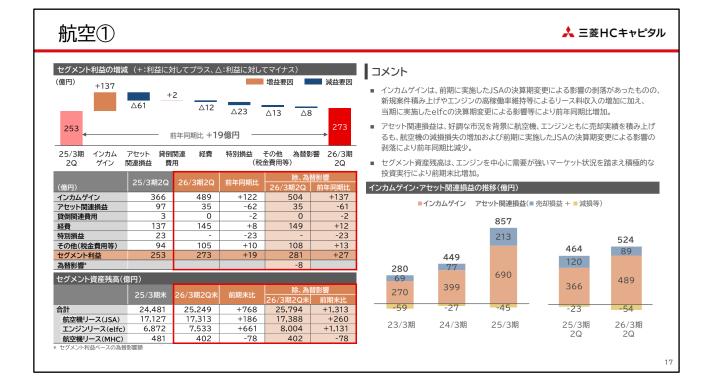
- インカムゲインは、持分法投資先に係る一過性の評価損の計上等により前年同期比減少。
- アセット関連損益は、前年同期に計上した国内太陽光発電案件に係る減損損失の剥落により前年同期比増加。なお、下期にはアセット売却益の計上を見込む。
- 貸倒関連費用は、前年同期に計上した国内再エネプロジェクト案件に係る大口費用の 剥落により前年同期比減少。
- その他(税金費用等)は、利益の増加にともなう税金費用の増加により前年同期比増加。



- ✓ 環境エネルギーセグメントにつきましては、前年同期に計上した大口の貸倒関連費用や減損損失の剥落などにより、セグメント利益は52億円改善したものの、海外の持分法投資先で一過性の評価損を計上したことや、出資先であるEuropean Energyの、のれんの償却を含む持分法投資に係る損失の計上などにより第1四半期に引き続き損失計上となりました。
- ✓ なお、さきほどの一過性の評価損ですが、当社が出資する持分法投資先に他社が供与していた ローンがエクイティに切り替わったことで、当社の出資持分が希薄化したことにより計上したも のです。従いまして、進めているプロジェクト自体の悪化に起因した評価損ではございません。
- ✓ 同業他社で、海外の再生可能エネルギー事業において、大口損失計上のニュースリリースがございましたが、今回当社が計上した損失はそれとは異なる性質のもので、個別プロジェクトや事業環境の悪化に起因したものではございません。
- ✓ なお、上期にアセット売却益の計上はございませんでしたが、下期にはアセット売却益の計上を 見込んでおります。
- ✓ ページが飛びまして、17ページにお進みください。

環境エネルギー② 🙏 三菱HCキャピタル 再エネ電力事業における運転開始済みの持分容量(MW) 再工ネ電力事業における持分容量の推移 **2.1** GW 1,698 合計 1,638 +60 1.6GW 1.6GW 1,102 1,167 +64 太陽光 1.3GW 1.2GW 国内 978 1,011 +33 1.2GW 124 155 +31 海外 風力 507 501 -5 200 216 +16 国内 海外 307 285 -21 その他 29 29 0 26/3期 2Q末 26/3期2Q末現在の 開発中案件®を実行 22/3期末 23/3期末 24/3期末 25/3期末 運転開始済みの持分容量内訳(26/3期2Q末) 運転開始済み+開発中案件*の持分容量内訳(26/3期2Q末) その他 2.1% その他 2.3% 風力 18.8% 風力 17.2% 風力 33.3% 海外 海外 **0.7**GW 51.8% 国内 国内 その他. 3.6% 1.2gw **0.4**GW 1.4gw

* 26/3期2Q末時点で獲得済み未実行案件のみ反映した見通し (26/3期2Q末以降の新規受注案件は考慮せず)



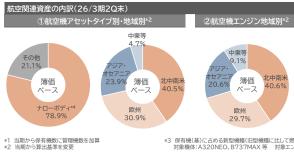
- ✓ 航空セグメントにつきましては、減損損失の増加があったものの、新規案件積み上げによる リース料収入の増加や、航空機工ンジンリースにおける高稼動率の維持、子会社の決算期変更の 増益効果などにより、セグメント利益は前年同期比19億円の増益となりました。
- ✓ 子会社の決算期変更の影響を除くと、減損損失の増加により減益となってはおりますが、 インカムゲインは大きく増加しており、事業そのものは引き続き好調を維持しております。
- ✓ ページが飛びまして、19ページにお進みください。

航空②

★ 三菱HCキャピタル



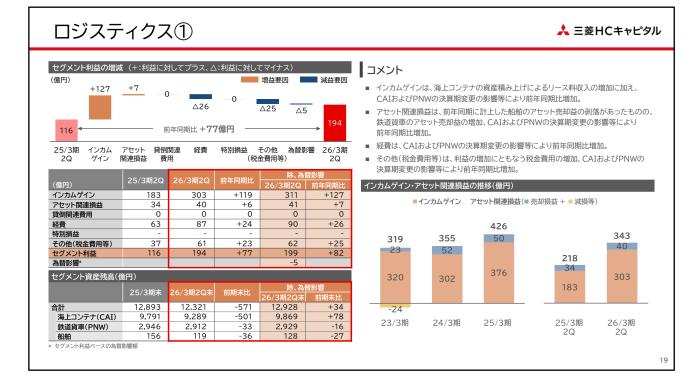






*3 保有機(基)に占める新型機種(旧型機種に比して燃費効率が良く、CO:排出量が少ない)の割合 対象機体:A320NEO、B737MAX等 対象エンジン: PW1100G、LEAP-1A/1B等

*4 主に近距離線で使用される単通路機

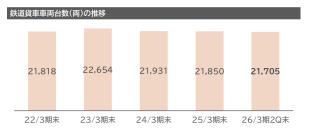


- ✓ ロジスティクスセグメントでございますが、こちらも決算期変更の影響による増益効果に加え、 海上コンテナの資産積み上げによるリース料収入の増加、鉄道貨車のアセット売却益の増加など により、セグメント利益は前年同期比77億円の増益となりました。
- ✓ 海上コンテナリース事業においては、昨年度は、中東情勢の混乱長期化や米国関税政策を受けた 駆け込み需要といった要因により、通常時期よりもコンテナ需要が高まっておりましたので、 これに比べますと、稼働率はやや低下傾向にありますが、引き続き好調を維持しております。
- ✓ ページが飛びまして、21ページにお進みください。

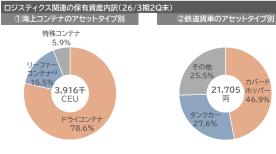
ロジスティクス②

★ 三菱HCキャピタル



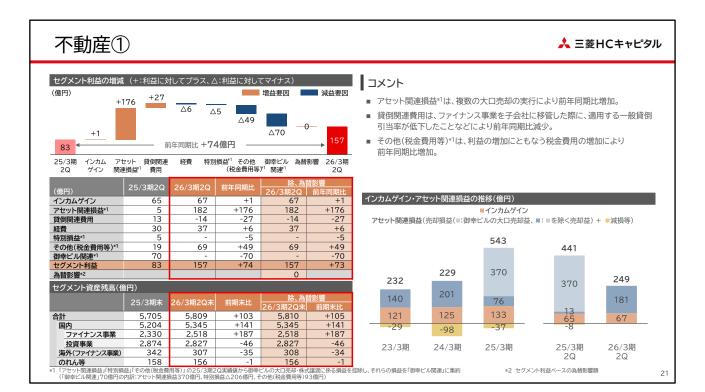




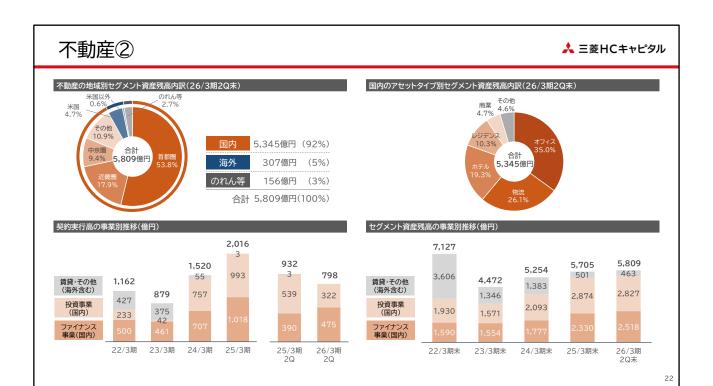


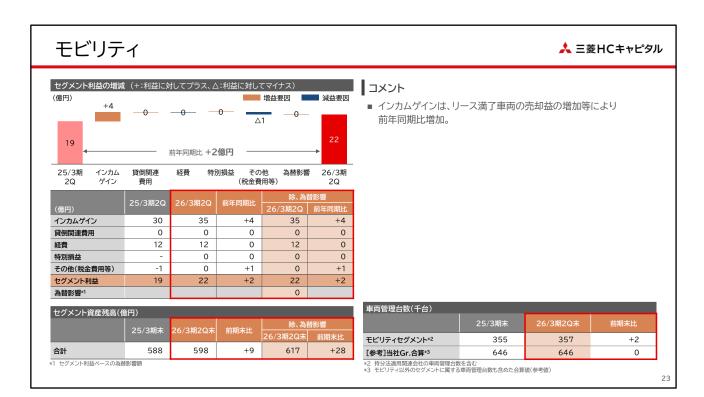
^{*1} TEU:Twenty Foot Equivalent Unitの略(20フィートドライコンテナ換算の容量単位) *2 CEU:Cost Equivalent Unitの第(コンデナ教養のコスト換算単位。20フィートドライコンデナを1CEUとし、 同コンデナ海橋を基準に各種コンデナ海体を対比が、CSW数を実出い

*3 冷凍・冷蔵用のコンテナ



- ✓ 不動産セグメントにつきましては、前年同期にあった御幸ビルディングの売却による増益効果の剥落があったものの、複数の大口アセット売却益の計上などにより、セグメント利益は前年同期比74億円の増益となりました。
- ✓ アセット売却は高水準で推移しておりますが、同時に新規の契約実行による資産の積み上げも 着実に行っております。
- ✓ ページが飛びまして、23ページにお進みください。





- ✓ モビリティセグメントは、オートリース事業のリース満了車両の売却益が増加したことなどにより、 セグメント利益は前年同期比2億円の増益となっております。
- ✓ 数字としては小さいですが、着実に進捗しております。
- ✓ では次に、業績予想につきましてご説明いたします。ページが飛びまして、25ページにお進みください。

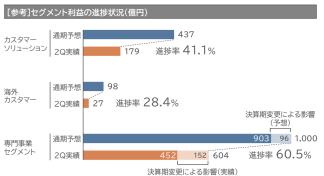
01 | 2026年3月期 第2四半期決算概要
02 | セグメント関連情報
03 | 2026年3月期 業績予想
04 | 中長期的な企業価値向上に向けた取り組み
05 | 参考情報

・ ● 単次に戻る

2026年3月期 業績予想

- ★ 三菱HCキャピタル
- ✓ カスタマーソリューションは、収益性の高い資産が順調に積み上がっているものの、新サービスの収益実現の進捗がやや遅れている。 利益の下期偏重傾向があること、手数料収入等の獲得の加速等により、通期予想(セグメント利益437億円)の達成をめざす。
- ✓ 海外カスタマーの第2四半期の純利益は低進捗ながら概ね見通しどおり。 下期には欧州の事業伸長や米州の業績改善等により、通期予想(セグメント利益98億円)の達成を見込む。
- ✓ 第2四半期の純利益は、期初より織り込んでいた連結子会社の決算期変更による増益効果があり業績予想(純利益1,600億円)に対して55.5%の進捗率となったが、概ね見通しどおりのため業績予想は変更なし。





25

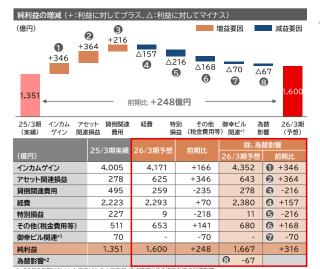
- ✓ 2026年3月期の業績予想につきましては、先ほど久井から説明いたしました通り、連結全体としては概ね計画通りに進捗しており、業績予想に変更はございません。
- ✓ 純利益の進捗を事業ごとに見ますと、カスタマーソリューションセグメントは、ここまで好調に推 移しておりますが、期初に見込んでいた新サービスの収益実現は、もう少し時間がかかる見通し で、もともと下期偏重の計画ではあったものの、やや進捗は遅れております。
- ✓ カスタマーソリューションとしては高い目標ではあるものの、手数料収入の獲得を加速させることや、不動産やヘルスケア事業等の成長領域での資産積み上げ、不動産リースをはじめとする 資産の売却などにより、目標の達成をめざします。
- ✓ 海外カスタマーセグメントも低進捗ながら、欧州事業の伸長や米州事業の業績改善などにより 下期に挽回を図ってまいります。
- ✓ 私(佐藤)からのご説明は以上となります。

(次のスクリプトは29ページをご参照)

【再掲】2026年3月期 純利益(予想)の前期比 増減要因



✓ 本年5月に公表した2026年3月期予想値に関して、左下表内に為替影響の調整前の予想値を追記し、再掲。



主な増減要	X
-------	---

↑ インカムゲイン
 ✓ カスタマーソリューション
 資産増加による収益増加、高収益ビジネスの拡大等
 ✓ ロジスティクス
 CAIが前期に積み上げた資産によるリース料収入増、ならびに、CAIおよびPNWの決算期変更による増益影響等

2 アセット関連損益

✓ 不動産 アセット売却益の増加、米国不動産の時価評価損減少等✓ 環境エネルギー アセット売却益の増加、前期に計上した減損損失の剥落

③ 貸倒関連費用

✓ 海外カスタマー 米州、ASEANにおける貸倒関連費用の減少等

✓ 環境エネルギー 前期に計上した大口費用の剥落

4 経費

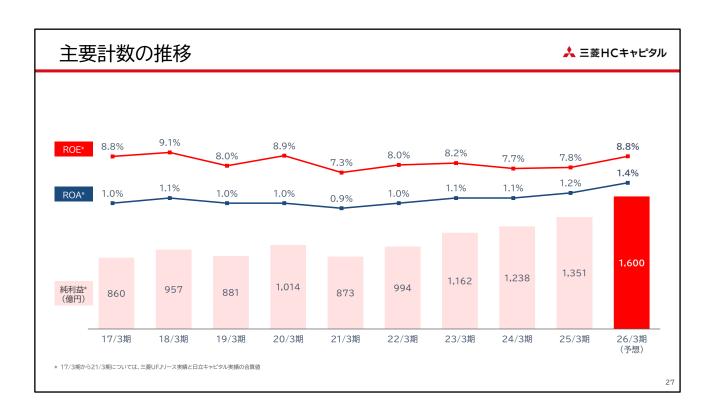
✓ カスタマーソリューション 営業活動推進に伴う費用の増加✓ ロジスティクス CAIおよびPNWの決算期変更による費用増影響等

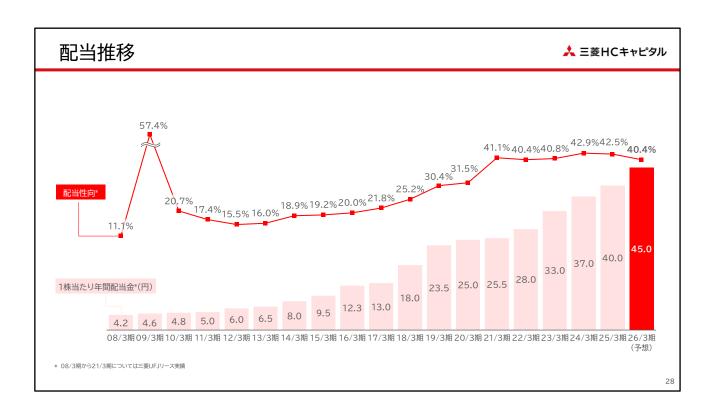
5 特別損益

✓ 環境エネルギー 前期に計上した海外インフラ案件に係る有価証券売却益の剥落等

√ カスタマーソリューション 前期に計上した関係会社株式売却益の剥落等

26





- 01 | 2026年3月期 第2四半期決算概要

 02 | セグメント関連情報

 03 | 2026年3月期 業績予想

 04 | 中長期的な企業価値向上に向けた取り組み

 05 | 参考情報
 - ✓ それでは私(久井)より、資料の「04.中長期的な企業価値向上に向けた取り組み」につきまして、 ご説明させていただきます。
 - ✓ このパートのご説明につきましては、5月の決算説明会でのご説明と一部重複する部分もございますが、私どもとして注力している点でもありますので、アップデートも含めてご説明させていただきます。
 - ✓ まずは、資料の30ページをご覧ください。

中長期的な企業価値向上に向けた取り組み 🙏 三菱HCキャピタル ✓「株主資本コストを持続的に上回るROEの実現」、「成長期待の向上、株主資本コストの低減によるPER水準の切り上げ」を 通じた企業価値の向上をめざしており、重要視している事項および具体的なアクションは以下の通り。 当社が重要視している事項 具体的なアクション ■ 事業ポートフォリオ変革によるリスク・リターンの引き上げ ROE アクション 財務レバレッジの適正化 積極的なオーガニック・インオーガニックの投資 01 事業ポートフォリオ変革を見据えた最適資本構成の実現 によるリスク・リターンの引き上げ **PBR** アクション ■ 市場見通しを上回る実績 ステークホルダーによる当社の理解度向上施策の 02 ■ 目標達成に向けた戦略・施策とその進捗に関する 実施 PER ■ ステークホルダーによる当社の理解度向上 等 株主資本コストの低減 ■ ESG評価の向上 PBRの向上

✓ ページ左側の図は、これまでも何回かご説明してきましたが、企業価値を測る指標の一つである PBRの向上を起点として、その構成要素であるROEとPERの観点で当社が重要視しているこ とを整理したものです。

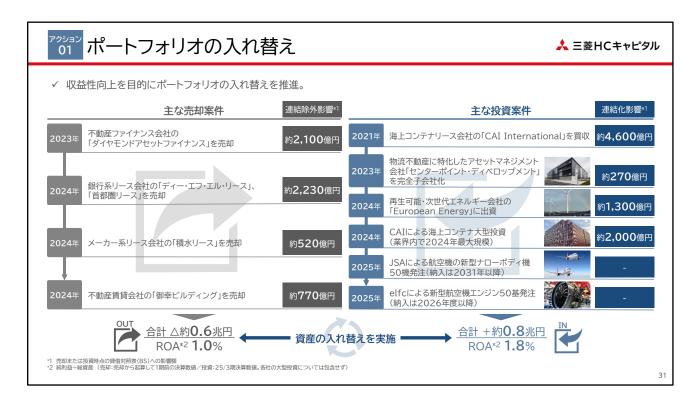
マンス

- ✓ このなかで特に重要であると考えているのはROEです。これは、事業ポートフォリオ変革による 「ROAの向上」と、財務健全性の維持や、積極的な投資戦略を支えるために必要な資本の確保と 株主還元を両立させる「財務レバレッジの適正化」により、実現をめざしています。
- ✓ また、PERにつきましても、資本市場との対話や開示の充実などにより「成長期待の向上」や 「株主資本コストの低減」を図ることで、その切り上げをめざしています。
- ✓ ページ右側では、これらを踏まえて実施してきた具体的なアクションとして、「ROAの向上」と 「成長期待の向上」の2つについてお示ししております。
- ✓ これらの詳しい内容は次のページ以降でご説明いたします。

■ 非財務資本の蓄積. 開示の充実

■ レジリエントな事業ポートフォリオの構築

✓ 31ページにお進みください。



- ✓ まずは、1つ目のアクションである「ROAの向上」に向けた施策として、収益性を高めていくための新規投資や資産の入れ替え、また、事業毎の戦略とリスク特性を踏まえたリスク・リターンの最適化を含むポートフォリオマネジメントを進めてきました。
- ✓ この表は、2021年4月の経営統合以降に実施した主な売却案件と投資案件を一覧化したものですが、国内のリース・ファイナンス子会社を中心に事業の売却を行いつつ、海上コンテナリース会社のCAIや再生可能・次世代エネルギー会社のEuropean Energyなど、専門性の高い事業を営む企業へのインオーガニック投資を行うことで、収益性の高い事業ポートフォリオへの入れ替えを進めてきました。
- ✓ また、オーガニック投資という観点では、CAIによる約2,000億円規模の海上コンテナへの大型 投資や、JSAによる航空機50機の大型発注、加えて直近では、航空機エンジンリース子会社の Engine Lease Financeによる新型航空機エンジン50基の大型発注を公表しています。
- ✓ あくまでも参考値ではありますが、主な売却案件と投資案件のROAは、売却案件が1.0%程度であるのに対し、投資案件は1.8%程度であり、この取り組みが当社グループのROA向上に寄与してきたことが、おわかりいただけると思います。
- ✓ この取り組みは2025中計で終わるものではなく、今後も果断に継続していきます。
- ✓ 32ページにお進みください。

[『]セグメント利益およびROAの推移

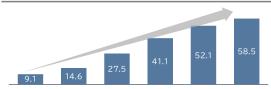
- √ 米州事業の不調等による海外カスタマーセグメントの落ち込みを専門事業セグメントの成長で吸収し、利益成長、ROA向上を実現。
- ✓ 今後、海外カスタマーセグメントの早期回復を実現しつつ、その他のセグメントを着実に成長させることで、全社利益の拡大をめざす。



- ✓ この棒グラフは2025中計期間中のセグメント利益とROAの推移をお示ししたものです。
- ✓ ご覧の通り、利益成長だけではなく、ROAの向上も果たしてきましたが、2025中計策定時点の 想定から大きく業績が乖離したのが棒グラフ内の下から二段目オレンジ色でお示ししている 海外カスタマーセグメントです。
- ✓ 当初、海外カスタマーセグメントは利益成長を牽引するセグメントと位置づけていましたが、米州 事業において想定以上の与信コストを計上したことなどにより、残念ながらこの3年間は大変苦 戦いたしました。
- ✓ しかしながら、薄い青色の網掛けでお示ししている上段部分の5つの専門事業セグメントがこの 落ち込みをカバーし、連結全体としては、着実な利益成長とROAの向上を果たしてきました。
- ✓ このように、2025中計では専門事業セグメントが成長を牽引しましたが、次の2028中計では、 海外カスタマーセグメントにおいても、早期の業績回復、さらなる成長を実現し、当社グループ 全体の成長を加速させていきたいと考えています。
- ✓ 33ページにお進みください。

- ✓ 個人株主の増加により、国内外機関投資家と個人株主のバランスが取れた株主構成を実現。
- ✓ 引き続き幅広い株主・投資家に対して、情報開示の拡充およびIR活動の強化を積極的に推進。

当社個人株主数*1の推移(万人)



21年4月1日 22年3月末 23年3月末 24年3月末 25年3月末 25年9月末

2025年9月末時点の当社株主構成



*1 単元未満株主も含む人数 *2 三菱商事、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券

2025中計期間中の主な取り組み

01 情報開示の拡充

- 既存資料(決算概要資料、統合報告書など)の内容充実
- 新たなIR資料(決算データシート、インベスターズガイド)の開示
- 決算説明会の開催回数の引き上げ(年2回から年4回)

02 事業別説明会の実施 💹

■ 前年度より 当社の事業内容や強み 成長戦略などに関する理解の深化を 目的として事業別説明会を実施。2025年度上期は不動産事業を対象に実施。

03 | 個人投資家向けイベントへの参加 いか

■ 毎年、複数の個人投資家向けイベントに参加。2025年度上期は9月に開催 された日経·東証IRフェア2025への出展や証券会社のセミナーに参加。

04 日経CNBC「朝エクスプレス」に3年連続で出演

■ 社長がマーケット・経済専門チャンネル「日経CNBC『朝エクスプレス』」に 3年連続で出演。当社の事業概要や強み、今後の成長戦略などを紹介。

- ✓ 2つ目のアクションである「成長期待の向上」につきましては、ステークホルダーの当社に対する 理解度を深めていただくために、情報発信の強化を図ってまいりました。
- ✓ ページ右側の具体的な取り組みをご説明する前に、ページ左側で当社株主構成について簡単に 触れさせていただきます。
- ✓ 左上の棒グラフは、2021年4月の経営統合以降の個人株主数の推移をお示ししていますが、 ご覧の通り、この4年半で6倍以上となる約58万人となりました。
- ✓ その結果、左下のパイチャートでお示ししている通り、現状、国内機関投資家、海外機関投資家、 および個人投資家の構成比率は、バランスの取れたものとなっています。
- ✓ こうした状況を踏まえて2025中計期間中に実施した主な取り組みをページ右側にお示しして います。
- ✓ これまで国内外の機関投資家やアナリストの皆さまからいただいたご要望を受けて、 1番目の情報開示の拡充、2番目の事業別説明会を実施いたしました。
- ✓ 事業別説明会では、事業ポートフォリオが広く分散しているがゆえに分かりづらくなっていた 当社の事業内容を、一つずつ丁寧にご説明していくことで、毎回高い評価を頂いています。 まだ実施できていない事業もありますので、今後も引き続き実施してまいります。 なお、まだ調整中ではありますが、今年度中には海外カスタマーセグメントの欧州事業について も実施したいと考えております。
- ✓ また、先ほど申し上げた通り個人株主数が急増しており、当社株主構成において重要な位置を占 めるようになりました。個人投資家の皆さまからは、事業内容を自分達にもわかり易く説明して 欲しいといった声も多く頂いており、こうした声にお応えすべく、当社として3番目の個人投資家 向けイベントへの参加、4番目の日経CNBC「朝エクスプレス」への私(久井)自身の出演も実施し てきました。
- ✓ このように幅広い株主、投資家の皆さまに対して、引き続き情報開示の拡充、ならびにIR活動の 強化を図ってまいります。
- ✓ 最後に34ページをご覧ください。

- ✓ こちらは2025中計開始時点からのPBRの推移をお示ししたものです。
- ✓ 2025中計の策定にあたり、まずは早期にPBR1倍割れの解消をめざすことを起点として議論 をいたしました。
- ✓ 今年の9月には、当社として初めてPBRが1倍を超え、その後も1倍を挟んで一進一退の状況にあることは、市場全体の動きもありますが、2025中計の各施策を社員一丸となって力強く進めてきた一つの成果だと考えております。
- ✓ ただし、まだ安定的にPBR1倍を上回る水準には至っておりませんし、1倍はゴールではなく 通過点でございますので、引き続き企業価値向上への取り組みを継続してまいります。
- ✓ 現在策定しております次の2028中計公表の際には、その具体的な施策とめざす姿をお話し したいと思います。
- ✓ 私(久井)からのご説明は以上となります。

01 2026年3月期 第2四半期決算概要
02 セグメント関連情報
03 2026年3月期 業績予想
04 中長期的な企業価値向上に向けた取り組み
05 参考情報

●目次に戻る

2026年3月期1Qにおける主な事業上のトピックス

▲ 三菱HCキャピタル

〇-2025年4月

■:ビジネスモデルの進化・積層化 ■:変革を促す仕組み ■:組織横断での重要テーマ ■:その他の主なトピックス

- ✓ サンエーと、共同で管理・運営する「太陽光発電設備の導入によるCO₂削減プロジェクト」を対象とするJ-クレジット®の 創出事業開始を発表。
- ✓ インターネットイニシアティブとの協業の第一弾として、製造業におけるカーボンニュートラルをめざす取り組みに必要な IoTセンサー、ネットワーク、および可視化プラットフォームを一括で提供する「省エネIoTパッケージ」の提供を開始。
- ✓ 新ビジネス開発促進を目的とした新会社「MHCインキュベーションセンター」を設立し、業務を開始。

〇-2025年5月

- ✓ 当社のグループ会社であるEuropean Energyが、再生可能エネルギー由来の電力から製造するグリーン水素と 生物由来の二酸化炭素(バイオジェニックCO₂)を合成して生成するe-メタノールの供給をデンマークで開始。
- ✓ サイネージ付き複合機の販売拡大およびオフィス内サイネージ広告事業の協業について検討を進めるべく、 オフィス内サイネージ広告事業を手掛けるPredictionと資本業務提携契約を締結。

- 2025年6月

- ✓ 当社のグループ会社である三菱HCキャビタルエナジーと、三菱地所、サムスン物産、大阪ガスの4社が出資する 上長都ひかり蓄電が、北海道千歳市での系統用蓄電池設備の設置にむけ着工したことを発表。
- ✓ お客さまのDXや新規事業開発を支援する機能を強化するために、DXコンサルティングおよびDXプラットフォーム/ソリューション事業を手掛けるインダストリー・ワン(現:エムシーディースリー)との業務提携契約を締結。
- * Jクレジット制度とは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO。等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO。等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度





1 サイネージ付き複合機のイメージ



3 蓄電池設備の設置イメージ

2026年3月期2Qにおける主な事業上のトピックス

★ 三菱HCキャピタル

〇—2025年7月

■:ビジネスモデルの進化・積層化 ■:変革を促す仕組み ■:組織横断での重要テーマ ■:その他の主なトピックス

✓ 気候アクションに特化した 「Jリーグ気候アクションパートナー」契約を締結。 ✓ 郵船クルーズが運航する新造クルーズ船「飛鳥Ⅲ」へ、デジタルサイ ネージとキャビン用テレビのサービスソリューションの提供を開始。 👩 1

- 2025年8月

✓ エネコートテクノロジーズ、北海道電力と、ペロブスカイト太陽電池*¹を活用した共同実証実験を開始。 62

✓ 当社のグループ会社であるEngine Lease Finance Corporationがナローボディ機エンジンの製造・販売大手の CFM Internationalと新型航空機エンジンLEAP-1AおよびLEAP-1B合計50基の直接購入契約を締結。 🗖 3

 当社ならびにグループ会社のMHCリニューアブルネットワークスは、MCリテールエナジーとともに分散型蓄電池を活用したソリューションの第一弾としてローソンの店舗への蓄電池設置を発表。 したソリューションの第一弾としてローソンの店舗への蓄電池設置を発表。

✓ 愛知県知多市における低炭素水素モデル タウン実証事業への参画を決定。 タウン実証事業への参画を決定。

✓ 当社ならびにグループ会社である三菱HCキャピタルITパートナーズが、 VAIOの保証付きリファービッシュパソコン*2を合計280台導入。

-2025年9月

✓ 2024年6月に資本業務提携契約を締結したソラリスと、 ミミズ型管内走行ロボットを活用した予防保全型インフラメンテナンス*3のサブスクリプションサービスの提供開始を発表。

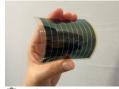
✓ アルプスアルパインと、子どもの安全を見守るIoTサービスの実証実験を開始。

✓ 2025中計の非財務目標の一つである「2030年度にGHG排出量(Scope1、2)を2019年度対比で55%削減」 について、2024年度に前倒しで達成したことを発表。 について、2024年度に前倒しで達成したことを発表。

*/ ベロブスカイ・構造と呼ばれる結晶構造を持つ化合物を発電層として用いた薄く、軽く、曲けることが可能な次世代太陽電池 *2 リース終了などでメーカーが利用顧客から買い取った自社製パソコンを、VAIQ安置野本計工場で修理・整備し、厳格なVAIO独自基準で再生したうえで、メーカー保証を1年付加したパソコン。 通常の中古品とは異なり、検査やグリーニング、必要に応じて部品交換などが行われている *3 施設の機能や性能に不具合が発生する前に修繕などの対策を行うこと



1 飛鳥Ⅲ





3 新型航空機エンジン

セグメント別利益①(四半期別)

★ 三菱HCキャピタル

					25/3期				26,	/3期	
(億P	9)	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	前四半期比	前年同期比	
1		インカムゲイン	270	260	267	312	1,112	287	280	-6	+19
2	カスタマー	アセット関連損益	7	2	6	5	22	13	3	-9	+1
3	ソリューション	経常利益	117	73	107	159	458	131	128	-3	+55
4		セグメント利益	103	52	75	136	368	90	89	0	+36
5		インカムゲイン	342	346	352	357	1,399	336	322	-13	-23
6	海がもつカフ	アセット関連損益	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	- 海外カスタマー -	経常利益	45	10	-1	5	60	25	25	0	+15
8		セグメント利益	32	7	-4	-8	26	10	17	+7	+10
9		インカムゲイン	8	5	11	53	79	3	-18	-22	-23
10		アセット関連損益	0	-40	0	40	0	-	-	-	+40
11	環境エネルギー	経常利益	-12	-139	4	74	-73	-15	-32	-17	+106
12		セグメント利益	3	-98	-7	150	47	-10	-32	-21	+66
13		インカムゲイン	207	158	170	152	690	302	186	-115	+28
14	航空	アセット関連損益	77	19	26	43	167	46	-11	-58	-31
15	別上	経常利益	209	114	151	153	629	263	114	-148	0
16		セグメント利益	159	94	117	101	472	190	83	-107	-10

セグメント別利益②(四半期別)

★ 三菱HCキャピタル

					25/3期				26,	/3期	
(億円)			1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	前四半期比	前年同期比
17		インカムゲイン	89	94	97	95	376	203	99	-104	+4
18	スティクス	アセット関連損益	20	13	5	9	49	33	7	-26	-6
19	A) 1)A	経常利益	76	77	77	78	309	178	77	-101	0
20		セグメント利益	56	60	59	56	232	135	58	-76	-1
21		インカムゲイン	32	33	29	37	133	24	43	+18	+9
22	*	アセット関連損益	0	375	0	34	409	88	93	+5	-281
23 不動	性	経常利益	15	382	14	54	466	111	115	+4	-266
24		セグメント利益	1	81	5	33	122	73	83	+10	+2
25		インカムゲイン	17	13	17	3	51	19	15	-4	+1
26		アセット関連損益	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27 EĽ!	771	経常利益	10	7	11	-2	27	13	9	-3	+1
28		セグメント利益	11	8	12	-1	31	12	9	-3	+1
29		インカムゲイン	1,026	960	967	1,051	4,005	1,299	957	-341	-2
30 合計*	*	アセット関連損益	106	370	38	133	649	181	93	-88	-277
31		経常利益	492	551	356	535	1,935	796	442	-354	-108
32		セグメント利益	391	225	252	481	1,351	572	315	-257	+89

アセット関連損益(四半期別)

★ 三菱HCキャピタル

				25/3期*				26/	3期*	
(億P	3)	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	前四半期比	前年同期比
1	カスタマーソリューション	7	2	6	5	22	13	3	-9	+1
2	売却損益	7	2	6	5	22	13	3	-9	+1
3	減損等	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	環境エネルギー	0	-40	0	40	0	-	-	-	+40
5	売却損益	0	-	0	40	39	-	-	-	
6	減損等	-	-40	-	-	-40	-	-	-	+40
7	航空	77	19	26	43	167	46	-11	-58	-3
8	売却損益	79	40	26	66	213	46	42	-3	+
9	減損等	-1	-21	0	-22	-45	-	-54	-54	-32
10	ロジスティクス	20	13	5	9	49	33	7	-26	-6
11	売却損益	20	13	5	10	50	33	7	-26	-6
12	減損等	-	-	-	0	0	-	-	-	
13	不動産	0	375	0	34	409	88	93	+5	-28
14	売却損益	13	370	9	54	447	90	90	0	-280
15	減損等	-12	4	-9	-20	-37	-2	3	+5	
16	アセット関連損益 合計	106	370	38	133	649	181	93	-88	-277
17	売却損益	120	428	47	177	773	184	144	-40	-283
18	減損等	-14	-57	-9	-43	-124	-2	-51	-48	+5

セグメント別特記事項(アセット関連損益を除く)

★ 三菱HCキャピタル

		25/3期 [•] 26/3期•	
Т		::【+】 関係会社株式等の売却益:約30億円	
1	カスタマーソリューション	Q:【-】 個別案件における大口の貸倒関連費用:約10億円	
		2:【+】 政策保有株式等の売却益:約35億円	
		: 【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約40億円 1Q: 【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約	35億円
		2Q:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約80億円 2Q:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約	
2	海外カスタマー	2:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約90億円 【-】 過去の英国自動車ローン手数料問題に係る費	用:約25億円
		2: 【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約85億円 【-】 ASEANにおける事業構造改革費用(貸倒関連費用):約25億円	
		:【+】 海外インフラ案件の持分売却益:約10億円	
	環境エネルギー	2: 【-】 国内再エネプロジェクト案件の貸倒関連費用:約85億円 【-】 EE向け持分法投資に係る損失:約20億円	押
3		2: 【-】 EE向け持分法投資に係る損失:約20億円 【+】 国内再エネプロジェクト案件の貸倒引当金の戻入:約10億円	
		2: 【+】 EE向け持分法投資に係る利益:約20億円 【+】 海外インフラ案件に係るスワップ解約益:約20億円 【+】 海外インフラ案件に係る有価証券売却益:約130億円	
4	航空	2: 【+】JSAの決算取込期間の調整影響:約60億円(税後) 【+】MHC保有の航空機リース案件の持分売却益:約20億円 【-】MHC保有の航空機リース取引に係る為替評価損:約15億円	税後)
		Q: [+] MHC保有の航空機リース取引に係る為替評価益:約15億円	
5	ロジスティクス	1Q:【+】 CAI、PNWの決算取込期間の調整影響:約62	2億円(税後)
6	不動産	Q:【+】 御幸ビルの大口売却・株式譲渡に係る増益効果:約70億円(税後) 1Q:【+】 一般貸倒引当金の戻入:約15億円	
7	モビリティ		
8	調整額	ロ: [+] JSAの決算取込期間の調整影響:約33億円(税後) 1Q: [+] elfc、CAI、PNWの決算取込期間の調整影響:	:約75億円(税征

セグメント別資産残高

★ 三菱HCキャピタル

(億円	3)	24/3期末	25/3期末	26/3期2Q末	前期末比(増減)
1	カスタマーソリューション	29,665	30,045	29,924	-121
2	構成比	29.1%	27.5%	27.0%	-0.5pt
3	海外カスタマー	30,708	30,749	31,752	+1,002
4	構成比	30.2%	28.1%	28.7%	+0.6pt
5	環境エネルギー	4,166	4,863	4,860	-2
6	構成比	4.1%	4.5%	4.4%	-0.1pt
7	航空	20,200	24,481	25,249	+768
8	構成比	19.8%	22.4%	22.8%	+0.4pt
9	ロジスティクス	10,990	12,893	12,321	-571
10	構成比	10.8%	11.8%	11.1%	-0.7pt
11	不動産	5,254	5,705	5,809	+103
12	構成比	5.2%	5.2%	5.3%	+0.1pt
13	モビリティ	519	588	598	+9
14	構成比	0.5%	0.5%	0.5%	0.0pt
15	調整額	290	28	178	+149
16	構成比	0.3%	0.0%	0.2%	+0.2pt
17	セグメント資産残高 合計	101,794	109,356	110,695	+1,339

+2

セグメント別契約実行高

★ 三菱HCキャピタル

(億P	9)	24/3期2Q	25/3期2Q	26/3期2Q	前年同期比(増減)	前年同期比(増減率)
1	カスタマーソリューション	4,630	4,434	4,251	-183	-4.1%
2	海外カスタマー	6,857	7,006	7,710	+704	+10.1%
3	欧州	3,846	4,380	5,275	+895	+20.4%
4	米州	2,232	1,883	1,821	-62	-3.3%
5	中国	207	145	36	-108	-74.6%
6	ASEAN	570	596	576	-19	-3.3%
7	環境エネルギー	103	120	72	-47	-39.6%
8	航空	1,695	3,001	1,916	-1,084	-36.1%
9	ロジスティクス	112	968	815	-153	-15.8%
10	不動産	703	932	798	-134	-14.4%
11	モビリティ	30	51	75	+23	+46.5%
12	調整額	0	-	-	-	-
13	契約実行高 合計	14,133	16,515	15,641	-874	-5.3%

セグメント別貸倒関連費用

★ 三菱HCキャピタル

(億F	9)	24/3期2Q	25/3期2Q	26/3期2Q	前年同期比(増減)	前年同期比(増減率)
1	カスタマーソリューション	19	36	9	-26	-73.1%
2	海外カスタマー	68	168	138	-30	-17.9%
3	欧州	25	34	45	+10	+29.8%
4	米州	35	118	68	-50	-42.1%
5	中国	13	11	4	-6	-61.9%
6	ASEAN	-5	3	19	+16	+491.3%
7	環境エネルギー	1	86	-4	-90	-105.2%
8	航空	-41	3	0	-2	-82.4%
9	ロジスティクス	0	0	0	0	+245.8%
10	不動産	0	13	-14	-27	-209.2%
11	モビリティ	0	0	0	0	-27.9%
12	調整額	0	0	0	0	-
13	貸倒関連費用 合計	47	307	130	-176	-57.5%

連結損益計算書 関連項目

★ 三菱HCキャピタル

(百)	5円)	24/3期2Q	25/3期2Q	26/3期2Q	前年同期比(増減)	前年同期比(増減率)
1	売上高	942,519	1,069,590	1,127,424	+57,833	+5.4%
2	売上原価	767,485	824,167	866,150	+41,982	+5.1%
3	資金原価	97,013	134,493	136,609	+2,115	+1.6%
4	売上総利益	175,034	245,422	261,274	+15,851	+6.5%
5	販売費及び一般管理費	110,619	143,190	131,311	-11,879	-8.3%
6	人件費	59,351	60,909	64,254	+3,345	+5.5%
7	物件費	45,338	50,512	51,916	+1,403	+2.8%
8	貸倒引当金	5,930	31,769	15,141	-16,628	-52.3%
9	営業利益	64,414	102,231	129,962	+27,730	+27.1%
10	経常利益	66,915	104,348	123,980	+19,632	+18.8%
11	特別利益	7,299	7,839	131	-7,708	-98.3%
12	特別損失	368	20,991	373	-20,617	-98.2%
13	税金等調整前四半期純利益	73,847	91,196	123,738	+32,541	+35.7%
14	親会社株主に帰属する四半期純利益	52,739	61,722	88,793	+27,071	+43.9%

連結貸借対照表 関連項目等

★ 三菱HCキャピタル

(百)	5円)	24/3期末	25/3期末	26/3期2Q末	前期末比(増減)	前期末比(増減率)
1	現金及び預金	366,478	313,399	334,197	+20,798	+6.6%
2	自己資本	1,685,267	1,789,625	1,831,248	+41,623	+2.3%
3	純資産合計	1,705,345	1,804,523	1,846,208	+41,685	+2.3%
4	総資産額	11,149,858	11,762,332	11,937,319	+174,987	+1.5%
5	セグメント資産残高	10,179,473	10,935,652	11,069,574	+133,922	+1.2%
6	営業資産残高	9,825,993	10,496,880	10,639,063	+142,182	+1.4%
7	持分法投資残高	177,850	279,263	279,170	-92	0.0%
8	のれん・投資有価証券等	175,629	159,508	151,339	-8,168	-5.1%
9	破産更生債権等	122,035	87,005	83,028	-3,976	-4.6%
10	貸倒引当金	66,983	40,711	39,110	-1,601	-3.9%
11	ネット破産更生債権等	55,051	46,293	43,917	-2,375	-5.1%
12	自己資本比率	15.1%	15.2%	15.3%	+0.1pt	-
13	ROE	7.7%	7.8%			
14	ROA	1.1%	1.2%			

連結貸借対照表 関連項目等(続き)

★ 三菱HCキャピタル

(百万	===\	24/3期末	25/3期末	26/3期2Q末	前期末比(増減)	前期末比(増減率)
15	有利子負債	8,439,792	8,840,797	9,031,922	+191,124	+2.2%
16	間接調達	4,919,380	4,916,445	5,092,352	+175,907	+3.6%
17	直接調達	3,520,411	3,924,352	3,939,569	+15,217	+0.4%
18	СР	784,178	965,408	1,107,276	+141,867	+14.7%
19	債権流動化	565,959	580,796	577,473	-3,323	-0.6%
20	社債	2,170,273	2,378,147	2,254,820	-123,327	-5.2%
21	直接調達比率	41.7%	44.4%	43.6%	-0.8pt	-
22	長期調達比率	82.5%	81.1%	78.9%	-2.2pt	-
23	外貨調達比率	60.6%	61.1%	61.5%	+0.4pt	-

主な海外子会社決算に適用する為替レート*					
	25/3期2Q		26/3期2Q		
	12月決算の主な海外子会社	3月決算の主な海外子会社	3月決算の主な海外子会社 (決算期を変更した子会社を除く)	決算期を変更した海外子会社 (elfc、CAI、PNW)	
24 損益計算書(PL)適用レート	\$1=152.25円	£1=195.46円 \$1=152.63円	£1=195.96円 \$1=146.04円	\$1=148.23円	
	25/3	3期末	26/3期2Q末		
	12月決算の主な海外子会社	3月決算の主な海外子会社	3月決算の主な海外子会社 (決算期を変更した子会社を除く)	決算期を変更した海外子会社 (elfc、CAI、PNW)	
25 貸借対照表(BS)適用レート	\$1=158.18円	£1=193.82円 \$1=149.52円	£1=199.86円 \$1=148.88円	\$1=148.88円	

* 12月決算の主な海外子会社→PLは1月~6月の期中平均レート、BSは25/3期末:2024年12月末時点、26/3期2Q末:2025年6月末時点の為替レートを適用 3月決算の主な海外子会社(決算期を変更した子会社を除く)⇒PLは4月~9月の期中平均レート、BSは25/3期末:2025年3月末時点、26/3期2Q末:2025年9月末時点の為替レートを適用 決算期を変更した海外子会社→当期のPLは2025年1月~9月の期中平均レート、BSは26/3期2Q末:2025年9月末時点の為替レートを適用

お問い合わせ先など

🙏 三菱HCキャピタル





→ 目次に戻る